



米国化学会の学術誌 日本論文がジャック

米国化学会が発行する学術雑誌「オーガニック・プロセス・リサーチ・アンド・デベロップメント(OPR&D)の4月号(写真)が話題を呼んでいる。一冊すべてを日本プロセス化学会会員による投稿が埋め尽くす異例の企画で、日本の論文が同誌を「ジャックした」との噂も飛び出した。7月24日に京都で開催する「第4回プロセス化学国際シンポジウム(ISSPC)」を前に日本の研究水準の高さを国内外に示したかたちだ。

OPR&D誌は医薬合成などのプロセス化学研究を主題とする論文誌。4月号は日本プロセス化学会が協力した特集号で、巻頭は大日本住友製薬の高橋和彦氏と日本プロセス化学会の佐治木弘尚会長(岐阜薬科大学教授)が投稿を寄せ、日本企業などの研究者による成果発表が続いた。全26ページを日本の論文が占めた。表紙は日本をイメージしたデザインを採用し、まさに日本のプロセス化学一色の一冊を実現。日本の研究・技術水準が国際的に改めて評価されたといえそうだ。

2019年4月26日付「化学工業日報」9面

無断転載・複製禁止

株式会社化学工業日報社